（別紙）

平 成 ２ ０ 年 ７ 月 ４ 日
内閣府食品安全委員会事務局

「食品に関するリスクコミュニケーション
－添加物のリスク評価と動物実験（仮題）－」
の開催と参加者の募集について（お知らせ）

食品安全委員会は、平成１５年７月の発足以来、リスク分析の考え方に基づき、食品健康影響評価（リスク評価）を行ってまいりました。また、評価結果等についてリスクコミュニケーションを行い、皆様に情報提供を行うとともに御意見を頂いてきたところです。

リスク評価では、多くの動物実験データを使用します。しかし、人間と動物の間には、違いがあるため、そのデータを、人間のリスクとして推定できるように、係数（安全係数）を掛けるなどして、安全性を担保したリスク評価が行われています。食品安全委員会でも、種間等の安全係数について、今後更に整理を行っていくこととしております。

このたび、米国より食品添加物等の発がん性に関する研究や、リスク評価に対する動物実験の活用について多々分析を行っているネブラスカ大学メディカルセンター病理学・微生物部教授サミュエル・M・コーエン博士をお招きし、添加物のリスク評価と動物実験についてお話を伺うことになりましたのでお知らせいたします。

また、コーエン博士の講演に先立って、福島昭治食品安全委員会添加物専門調査会座長から、食品安全委員会が行っている添加物のリスク評価の取組等についても御紹介させていただき、その後、会場の皆様と質疑応答、意見交換を行うこととしております。

１．開催日時及び場所：

日付	時間	開催地	会場名
平成20年7月25日(金)	14:00-16:30	東京	星陵会館　ホール

２．会　　場（別紙地図参照）：
星陵会館　ホール　（東京都千代田区永田町２－１６－２）

３．主　　催：食品安全委員会

４．参 加 者：東京会場　約２００名

５．プログラム（予定）
（１）講演
①「添加物についてのリスク評価の考え方と実際（仮題）」
福島　昭治（食品安全委員会添加物専門調査会座長）

②「ラットとマウスは『小さな人間』ではない！：動物実験に基づくリスク評価(仮題)」
サミュエル・M．コーエン
（ネブラスカ大学メディカルセンター病理学・微生物部教授）

（２）会場参加者との意見交換
登壇者：福島　昭治（食品安全委員会添加物専門調査会座長）

サミュエル・M. コーエン
（ネブラスカ大学メディカルセンター病理学・微生物部教授）

６．参加者の募集

参加を御希望の方は、**別添**のとおり、①氏名（フリガナ）、②参加証送付先住所・郵便番号、③電話番号、④ＦＡＸ番号、⑤勤務先を御記入の上、ＦＡＸ、ハガキ、インターネットで下記にお申し込みください。希望者が多い場合は、先着順で締め切らせていただく場合がありますので御了承ください（参加費無料）。

◎申込締切　平成２０年７月２２日（火）　１７：００まで

また、参加の可否については、参加証の郵送又はＦＡＸにより御連絡いたします。参加証の郵送が間に合わない場合、ＦＡＸでのお知らせとなりますのでＦＡＸ番号は必ず御記入願います。

参加証又はＦＡＸのお知らせを受け取られた方は、意見交換会当日、会場受付で、当該参加証又はＦＡＸのお知らせを御提示ください。なお、参加証及びＦＡＸのお知らせをお忘れになった場合等は、身分を証明するもの（運転免許証、健康保険証、社員証など）を御提示いただきますので御注意ください。

なお、氏名・住所等は、当方から必要に応じて御連絡させていただく場合や会場での参加確認のため、また、どのような立場の方々が御参加されているのかを把握するためにお尋ねしております。

本会はマスコミにすべて公開いたします。発言者、参加者の写真及び映像が配信・報道される可能性があることをあらかじめ御了承ください。

（申込先について）

申込先：「食品に関するリスクコミュニケーション」事務局

・ＦＡＸでの御応募：０３－５２９４－２４７０

・ハガキでの御応募：

〒 101-0047　東京都千代田区内神田2-1-2

・インターネットでの御応募：食品安全委員会ホームページ(http://www.fsc.go.jp)で７月４日（金）17:00から受付開始

（応募フォーム：http://www.itinfo.jp/risk08/03/）

問い合わせ先：「食品に関するリスクコミュニケーション」事務局

ＴＥＬ　０３－５２９４－２７００

（受付時間　９：３０～１７：００　土日・祝日を除く）

業務管理委託先：株式会社日経スタッフ　　責任者：東條

食品安全委員会では、事務効率改善の観点から、一般競争入札により決定された民間企業に、会場の確保、参加者受付などの一部業務を委託して実施しております。

個人情報の管理については、業務委託を受ける民間企業に対し、食品安全委員会として適切な指導・監督を行っています。

【報道関係者の皆様へ】

・意見交換会は公開といたします（カメラ撮り可）。

・参加を希望される報道関係者につきましては、会場設営の都合上、**申込期限（平成20年7月22日（火）17:00）まで**に、「食品に関するリスクコミュニケーション参加希望」を明記し、①会社名、②氏名、③ＴＶカメラの有無、④電話番号、⑤ＦＡＸ番号、⑥住所、⑦参加人数を記入（様式自由）の上、上記申込先まで御連絡ください。

（　別添　）

食品に関するリスクコミュニケーション

－添加物のリスク評価と動物実験（仮題）－

（平成２０年７月２５日（金）開催）

参加申込書

フリガナ ① 氏 名	② 住所（都道府県から）	③TEL番号(市外局番から) ④FAX番号	フリガナ ⑤勤務先 所属団体等
	□勤務先　□自宅 〒＿＿＿＿－＿＿＿＿	TEL FAX	
	□勤務先　□自宅 〒＿＿＿＿－＿＿＿＿	TEL FAX	
	□勤務先　□自宅 〒＿＿＿＿－＿＿＿＿	TEL FAX	

※ ハガキでのお知らせに間に合わない場合、FAXでのお知らせとなりますので
FAX番号は必ず御記入願います。

・該当する番号にひとつだけ○を付けてください。

1）消費者団体（生活協同組合関係者など）　2）無職、主婦、学生
3）生産者（農林水産業など）　4）食品関連事業者・団体（加工、流通、販売など）
5）マスコミ関係者　6）行政（自治体職員、独立行政法人等職員など）
7）食品関連研究・教育機関（教員、研究職員など）
8)その他(具体的に御記入ください:　　)

◎申込締切　平成20年7月22日（火）

※本用紙は**平成20年7月22日(火)17:00までに**ご提出いただきますようお願いいたします。

ＦＡＸ送信先：　０３－５２９４－２４７０「食品に関するリスクコミュニケーション」事務局

（問い合わせＴＥＬ　０３－５２９４－２７００）

（別紙地図）

星 陵 会 館

東京都千代田区永田町２－１６－２



◆交通アクセス

・地下鉄有楽町線、半蔵門線、南北線　永田町駅下車6番出口　徒歩3分
・地下鉄千代田線　国会議事堂前駅下車5番出口　徒歩5分
・地下鉄南北線　溜池山王下駅下車（国会議事堂前駅5番出口）　徒歩5分
・地下鉄銀座線、丸ノ内線　赤坂見附駅下車　　徒歩7分

（ 参 考 ）

《講演者等プロフィール》

○ サミュエル・M．コーエン （Samuel M. Cohen, M.D., Ph.D.）

ネブラスカ大学メディカルセンター病理学・微生物部教授
ウィスコンシン大学マディソン校卒。腫瘍学専攻。医学博士
専門は、発がん性化学物質、毒性学、リスク評価、外科病理学、泌尿器病理学等多岐にわたる。
特に、発がん性物質の動物実験をどのように人間に外挿すべきか、膀胱等をモデル器官とし、多くの研究を行っている。げっ歯類の実験結果の外挿について、有用性の分析を行ったサッカリンのリスク評価等は特に有名である。受賞、著書多数。

＊ 講演「ラットとマウスは『小さな人間』ではない！：動物実験に基づくリスク評価(仮題)」の概要

サミュエル・M・コーエン

食品中の物質、成分、添加物または汚染物質の多くは、ラットやマウスの長期試験において発がん性を示す。これらほとんどの化学物質は、普通の食品中にごく少量存在するが、人間の発がんリスクとはなりえない。ＷＨＯ国際化学物質安全性プログラムでは、動物試験を検証し、人間へのリスクを評価する分析フレームワークを開発した。動物実験において、定量的メカニズムでも定性的メカニズムでも発がん性を示す多くの物質は、人間には発がんリスクとはならない。その他多くの化学物質は、高濃度の、通常の食生活に比べはるかに高いレベルを摂取した場合のみ、毒性と発がん性を示す。 多くの食品や製品及び飲料に使用されているサッカリンは、代表的な例であると言える。サッカリンはラットに膀胱がんを発症させる。しかし、高用量の時のみであり、それは、人間でいうと生まれてから毎日２５０ｍｌ缶のダイエットソーダを千缶飲み続けるようなものである。このような高用量であっても、このメカニズムはラット特有のものであり、マウス、猿、人間では発症しない。ラットもしくはマウスにおける化学物質の発がん性テストの半数程度は、陽性を示す。しかし、メカニズムの違い、そして／または暴露レベルの違いを考えると、これらの化学物質は、人間の発がんリスクとはならず、私たちの食品の安全性は保たれていると考えられる。

○ 福島　昭治　（ふくしま・しょうじ）

食品安全委員会添加物専門調査会座長、中央労働災害防止協会日本バイオアッセイ研究センター所長
名古屋市立大学医学部卒。医学博士。
大阪市立大学大学院医学研究科長兼医学部長、都市環境病理学教授等を経て現職。化学物質の発がん性、特にリスク評価を研究領域都市、発がん物質の閾値、ヒト発がん物質ヒ素の実験的証明等などを研究。実験的膀胱発がん及び膀胱病理についても研究、著書多数。